

重点施策		市立高等学校の充実		評価実施者		所 属	滝川西高等学校事務局
				職・氏名		事務長 法村 幸子	

重点 施策 の 概 要	目 的	[文武両道]の精神のもと、規律を重んじる校風を高め、地域の期待に応える高校教育を推進するとともに、時代の変化に対応した市立高校の将来を展望したビジョンを策定し、地域や日本、世界に貢献する人材の育成を図る。					
	今年度の 主要事業	①英語教育及び国際理解教育の推進 ②キャリア教育の充実 ③教育環境の整備・充実					

事業の 目 標 と 実 績			単位	H25	H26	H27	特記事項	
	1	国公立大学への合格者数	目標 実績	人	20.0 28.0	25.0 19.0		25.0 18.0
	2	就職決定率	目標 実績	%	100.0 100.0	100.0 100.0	100.0 100.0	6年連続100%の決定率
	3	GTEC	目標 実績	スコア	全国平均 460.0	全国平均 461.0	全国平均 461.0	
	4	実用英語検定2級合格者数	目標 実績	人	30.0 28.0	30.0 9.0	30.0 11.0	
	5	全商検定3種目以上1級合格者数	目標 実績	人	40.0 49.0	50.0 42.0	50.0 51.0	
	6	日商簿記検定2級合格者数	目標 実績	人	10.0 15.0	20.0 1.0	20.0 4.0	
	7	入学者定員の充足率	目標 実績	%	100.0 100.0	100.0 100.0	100.0 99.3	定員280名 入学者278名

事業の分析 効果の検証	① 英語教育及び国際理解教育の推進…全ての授業をオールイングリッシュで実施、JICA等国際機関と連携したグローバル体験の創出、外国語指導助手(ALT)の配置、米国ロングメドール高校への短期留学の実施、ベトナム・カンボジアスタディツアーへの生徒の派遣、滝西・英語教育改善セミナーの開催 【成果】外国語指導助手(ALT)を1名増員2名配置とし、ALTとの英語会話授業を全生徒に受けさせることが出来た。短期留学交流10周年を記念して、ロングメドール高校と姉妹校提携調印を両校で行い、友好関係を深めることが出来た。将来の国際人として活躍できる人材育成を目的とした文部科学省の指定事業「スーパー・グローバル・アソシエイト」に指定された。 ②キャリア教育の充実…3年間を見通した計画的なキャリア教育の実施、ガイダンス機能の強化・充実、上級学校の体験学習やインターンシップの参加・実施等 【成果】国公立大学への合格者数や就職決定率に効果が反映された。 ③教育環境の整備・充実…非構造部材補強工事(体育館及び格技場)、鉄骨階段補強工事、体育館ステージ壁修理 【成果】緊急・優先度を考慮して改修・整備した。
課題	・平成30年度北海道公立高等学校配置計画の定員調整(学級減)を受け、学科転換を含めた検討が必要である。 ・施設・設備や教材・教具等の改修・整備を計画的に行っているが、施設の老朽化による電気・水道設備等の改修が必要である。

評価	A 評価の視点1 期待どおりの効果があったか 目標値を上回ったのは、就職決定率が6年連続で100%、全商検定3種目以上1級合格者が51人の2項目のみだが、昨年度の実績より英語検定と簿記検定の合格者が、微増しているなど、ほぼ期待どおりの効果を上げていると考える。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の余地があるか 今後も順次、施設・設備や教材・教具等の改修・整備を行う必要がある。
----	--

【評価の区分】

A: 期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する

B: ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある

C: 概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である。

D: 期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

事業の今後の方向性	市立高等学校は、平成30年度に定員調整(学級減)が行われ、1間口減となり、減ずる学科及び学科転換を検討している。今後においても、一人一人の個性や能力・適正に応じた教育に努め、西高の特色である英語・国際理解教育や先進的な商業・ビジネス教育を中心に、学科の特性を生かした活気ある学校づくりを行い、選ばれる高校をめざす。また、入学者定員を充足するためにも、施設・設備や教材・教具等の改修・整備など、計画的に行いながら、事業の継続・充実を図っていくことが必要である。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	---

◎外部評価委員の評価・意見等

点検・評価に関するコメント	特になし
---------------	------